



東証 : 4502

TAK
LISTED
NYSE

成長と株主還元への コミットメント

2023年度第1四半期決算発表

2023年7月27日



重要な注意事項



5 5本注意事項において、「プレゼンテーション（presentation）」とは、本プレゼンテーションに関して武田薬品工業株式会社（以下、「**武田薬品**」）によって説明又は配布された本書類並びに一切の口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法の登録又は登録免除の要件に基づいて行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性があります。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあり得ます。同様に、「当社（we、us及びour）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

本プレゼンテーションに記載されている製品名は、武田薬品又は各所有者の商標又は登録商標です。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む武田薬品の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする（targets）」、「計画する（plans）」、「信じる（believes）」、「望む（hopes）」、「継続する（continues）」、「期待する（expects）」、「めざす（aims）」、「意図する（intends）」、「確実にする（ensures）」、「だろう（will）」、「かもしれない（may）」、「すべきであろう（should）」、「であろう（would）」、「かもしれない（could）」、「予想される（anticipates）」、「見込む（estimates）」、「予想する（projects）」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の結果は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の結果とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む武田薬品のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、世界的な医療制度改革を含む関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発に内在する困難、新製品及び既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機が、武田薬品が事業を行う国の政府を含む武田薬品とその顧客及び供給業者又は武田薬品の事業の他の側面に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（買収後の統合活動）の時期及び影響、武田薬品の事業にとっての非中核資産を売却する能力及びかかる資産売却のタイミング、当社による省エネルギーへの取り組み及び将来の再生可能エネルギー又は低炭素エネルギー技術の発展による当社の温室効果ガス排出量の削減の程度、武田薬品のウェブサイト（<https://www.takeda.com/jp/investors/sec-filings-and-security-reports/>）又はwww.sec.govにおいて閲覧可能な米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書並びに武田薬品の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は武田薬品が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果及び情報は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

財務情報及び国際会計基準に準拠しない財務指標

武田薬品の財務諸表は、国際会計基準（以下、「IFRS」）に基づいて作成されております。本プレゼンテーションには、Core売上収益、Core営業利益、Core当期利益、Core EPS、CER（Constant Exchange Rate：恒常為替レート）ベースの増減、純有利子負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリー・キャッシュ・フローのように、IFRSに準拠しない財務指標が含まれています。当社経営陣は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本プレゼンテーションに含まれるIFRSに準拠しない財務指標に基づいて行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、最も良く対応するIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュ・フロー項目を除外しております。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社経営陣は、投資家の皆様に対し、武田薬品の経営状況及びCore業績の更なる分析のための為替変動の影響を含む付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません（IFRSに準拠する財務指標を「財務ベース」指標として参照している場合があります）。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、本プレゼンテーションの巻末に掲載した財務補足情報にて、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただけますようお願い申し上げます。

為替

本プレゼンテーションでは、特に断りのない限り、利用者の便宜のために、日本円で表示された一部の金額をニューヨーク連邦準備銀行が2023年6月30日に認定した正午時点の買値レートである1米ドル=144.47円で米ドルに換算しています。これらの便宜的な換算に使用された買値レート及び換算方法は、当社の連結財務諸表に使用されるIFRSの換算レート及び換算方法とは異なります。これらの便宜的な換算は、関連する日本円のコストが当該買値レート又は他のレートで米ドルに換算されうること示すものではありません。

医療情報

- 2 本プレゼンテーションには、製品に関する情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

AGENDA

Introduction

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO



パイプラインアップデート

アンディー・プランプ

リサーチ&デベロップメント

プレジデント



財務報告

コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル オフィサー



質疑応答

2023年度第1四半期ハイライト：長期的な成長に向けた戦略の実行



成長製品・新製品の売上収益 +16%成長（CERベース） 力強い年度の始まり

- 売上収益 **+3.7%成長（CERベース）**¹
- 成長製品・新製品の売上収益 **+16.2%成長（CERベース）**
（売上収益全体の40%を占める）
- 通期マネジメントガイダンスに変更無し

2023年度第1四半期 業績サマリー

（億円、EPSを除く）

	財務ベース		CORE ²		
	2023年度 第1四半期累計	実勢レート ベース 増減率（%）	2023年度 第1四半期累計	実勢レート ベース 増減率（%）	CER ¹ ベース増減率 （%）
売上収益	10,586	+8.9%	10,586	+8.9%	+3.7%
営業利益	1,686	+12.0%	3,263	+2.3%	△2.0%
EPS	58円	△15.4%	150円	+3.5%	+0.3%



革新的なパイプラインの進展により 長期的な成長に対する自信を深める

- アルゼンチンおよびタイにおいてもQDENGGAの承認を取得し、良好な臨床データに対する評価とデング熱ワクチンに対するアンメット・ニーズの高さを示す
米国食品医薬品局（FDA）との協議の結果、米国における生物製剤承認申請（BLA）を自主的に取り下げ
- 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）の治療薬としてGAMMAGARD LIQUIDを米国で承認申請
- Fruquintinibは、治療歴を有する転移性大腸がんを対象とし、米国において優先審査指定を受け、欧州では販売許可申請が受理される
- TAK-755は、米国において先天性血栓性血小板減少性紫斑病（cTTP）の治療薬として優先審査指定を受ける
- 臨床試験中止となったTAK-994のデータが*New England Journal of Medicine*³に掲載、オレキシン2受容体作動薬の前例のない有効性が示される
TAK-861の臨床第2b相試験の被験者登録は順調に進行中

1. Constant Exchange Rate：恒常為替レート。定義はA-1ページをご参照下さい。
2. 定義はA-1ページ、調整表はA-5、A-6ページをご参照下さい。
3. Dauvilliers Y, et al. *New England Journal of Medicine*. 2023. 肝毒性のため試験は早期終了。

流行国および渡航者用ワクチン市場における強い初期需要により、 QDENGАの勢いは良好



ピーク時売上高想定 16－20億米ドル

流行国は引き続き最優先市場として、
ピーク時売上高想定額の約80-85%を占める

ブラジル ✓



ブラジルで承認された新たなデング熱
ワクチンは、歴史的な流行の終息を象徴か？¹

インドネシア ✓



アルゼンチン ✓

Buenos Aires Herald

規制当局がアルゼンチンで
デング熱ワクチンを承認²

タイ ✓



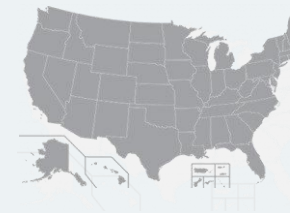
渡航者用ワクチン市場における力強い上市は欧州が牽引
米国での承認申請取り下げは残念であるものの、商業的な影響は最小限

欧州 ✓



ドイツ、オーストリア、ベルギー、
北欧諸国、英国、アイルランド、
チェコ、ルクセンブルグ、オランダ、
ポルトガルおよびスペイン
において上市済み

US ⊖



予め米国食品医薬品局（FDA）により
了承されていた治験実施計画書に
記載されていないデータを含む
追加データをFDAより求められ、現行の
審査サイクル内での解決が困難なため、
承認申請を自主的に取り下げ

- 推進団体や国際機関（世界保健機関（WHO）、汎米保健機構（PAHO））との継続的な対話

- ドイツ・ジンゲン工場に新たな原薬棟を開設
- 製造能力拡大のための提携を進める

成長と株主還元へのコミットメント



短期
(2024-2025年度)

中期
(2026年度-2030年代初頭)

長期
(2030年代以降)

売上収益・利益・利益率の成長へ回帰

成長製品・新製品の持続的な拡大

革新的な後期開発パイプラインのさらなる上市

Entyvioのバイオシミラーが上市されるまで独占販売期間満了の影響は限定的

約40の新規候補物質からなる開発パイプラインを含めた、強固な研究開発戦略のさらなる貢献

- Core営業利益率30%台前半から半ばへの回復
- データ、デジタル、テクノロジーの活用による生産性の向上
- 候補物質にターゲットを絞った事業開発を継続し、パイプラインを強化
- 毎年の年間配当金を増額または維持する累進的な配当方針

AGENDA

Introduction

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO

パイプラインアップデート

アンディー・プランプ

リサーチ&デベロップメント

プレジデント



財務報告

コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル オフィサー

質疑応答

2022年度第4四半期以降の主なパイプラインアップデート



成長製品・ 新製品	HYQVIA	・ 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）の臨床第3相ADVANCE-CIDP 1試験データがJPNSに掲載 ¹
	GAMMAGARD	・ 米国において GAMMAGARD LIQUID をCIDPの治療薬として申請
	EXKIVITY	・ 臨床第3相EXCLAIM-2試験 ² は無益性解析の結果に基づき中止、各国の規制当局と協議中
	QDENG	・ アルゼンチンおよびタイにおいて承認取得。ブラジル、インドネシアおよび欧州各国で上市済み ・ 予め米国食品医薬品局（FDA）により了承されていた治験実施計画書に記載されていないデータを含む追加データをFDAより求められ、現行の審査サイクル内での解決が困難なため、承認申請を自主的に取り下げ
パイプライン	fruquintinib	・ 治療歴を有する転移性大腸がん（mCRC）を対象に米国および欧州において申請。FDAは優先審査に指定 ・ mCRCにおける臨床第3相FRESCO-2試験のデータが <i>The Lancet</i> に掲載 ³
	TAK-755	・ 先天性血栓性血小板減少性紫斑病（cTTP）を対象に米国および欧州において申請。FDAは優先審査に指定 ・ cTTPにおける臨床第3相試験のデータを国際血栓止血学会（ISTH）において発表 ⁴
	fazirsiran	・ α-1アンチトリプシン欠乏症による肝疾患（AATD-LD）における臨床第2b相試験のデータを欧州肝臓学会（EASL）において発表 ⁵
	TAK-611	・ 異染性白質ジストロフィー（MLD）における臨床第2相試験のトップライン結果は主要評価項目および副次評価項目を達成せず
	オレキシン2 受容体作動薬	・ TAK-994 : <i>New England Journal of Medicine</i> ⁶ に初の経口オレキシン2受容体作動薬の臨床第2b相試験データが掲載 ナルコレプシータイプ1患者さんにおいて前例のない有効性を示すも、肝毒性のため試験は早期終了 ・ TAK-861 : 長期継続投与試験を2023年4月に開始。24年度上期の臨床第2b相試験データの読み出しに向け順調に進捗 ・ Danavorexton (TAK-925) : 全身麻酔後の閉塞性睡眠時無呼吸症候群の臨床第2相試験を開始

1. Bril V, et al. *J Peripher Nerv Syst.* 2023; 1-14.

2. EXCLAIM-2試験は、エクソン20挿入変異を有する非小細胞肺癌における一次治療の臨床試験

3. Dasari NA, et al. *Lancet* 2023; 402: 41-53.

4. Scully M, et al. Oral presentation OC 14.1. 国際血栓止血学会 (ISTH) モントリオール (2023年6月25日)

5. Clark V, et al. 口演 OS-120. 欧州肝臓学会 (EASL) ウィーン (2023年6月24日)

6. Dauvilliers Y, et al. *N Engl J Med* 2023; 389:309-21

初の経口オレキシン2受容体作動薬は、プラセボと比較し、ナルコレプシータイプ1（NT1）患者さんの日中の覚醒を有意に改善し、カタプレキシー（情動脱力発作）を低下または消失¹



TAK-994 臨床第2b相 試験	30mg群、90mg群、180mg群またはプラセボ群に無作為化 割り付けし、1日2回投与した - 主要評価項目：覚醒維持検査（MWT）による平均睡眠潜時の ベースラインから投与8週目までの変化量。 副次評価項目には、エプワース眠気尺度（ESS）の変化量、 1週間あたりのカタプレキシー発現率（WCR）、治療下で発現 した有害事象が含まれる	TAK-994 臨床第2b相試験 成績 (投与8週目)					プラセボ 1日2回	30mg 1日2回	90mg 1日2回	180mg 1日2回
	MWTによる睡眠潜時のベースライン からの変化量 プラセボ調整後のベースラインからの変化量	-2.5	23.9 Δ = 26.4 P < 0.001	27.4 Δ = 29.9 P < 0.001	32.6 Δ = 35.0 P < 0.001					
	ESSのベースラインからの変化量 プラセボ調整後のベースラインからの変化量	-2.1	-12.2 Δ = -10.1 P < 0.001	-13.5 Δ = -11.4 P < 0.001	-15.1 Δ = -13.0 P < 0.001					
結果/結論	- TAK-994 は臨床第 2 b相試験および継続投与試験において、 眠気の指標およびカタプレキシーをプラセボと比較し大幅に改善 したものの、肝毒性との関連が認められた - オレキシン2受容体が、NT1およびその他の睡眠覚醒障害の 治療薬の開発において有望な新規標的であることが示された - 実薬が投与された56例中44例の患者さん（79%）に有害事象が 認められ、最も頻度が高く認められたのは尿意切迫と頻尿 - 臨床的に重大な肝酵素値の上昇は5例において認められた。 Hy’s law の基準に該当する薬剤性肝障害は3例（180mg群で2例、 90mg群で1例）において認められた	1週間あたりのカタプレキシー発現率 プラセボと比較した発生率比(IRR)	5.83	0.27 IRR = 0.05 P = 0.002	1.14 IRR = 0.20 P = 0.02	0.88 IRR = 0.15 P = 0.001				
	MWT：覚醒維持検査 範囲 0-40分；正常：20分以上 8週間の臨床第2b相試験を終了した患者さんは、さらに8週間の継続投与試験の対象となりうる 73例の患者さんが登録。試験を早期終了したため、主要評価項目のデータは41例の患者さんからのみ取得が可能であった。									

TAK-861
経口オレキシン受容体作動薬
NT1/2、その他の睡眠/覚醒障害

2024年度上期：臨床第2b相試験/POC 読み出し予定
臨床第3相試験への進展を判断

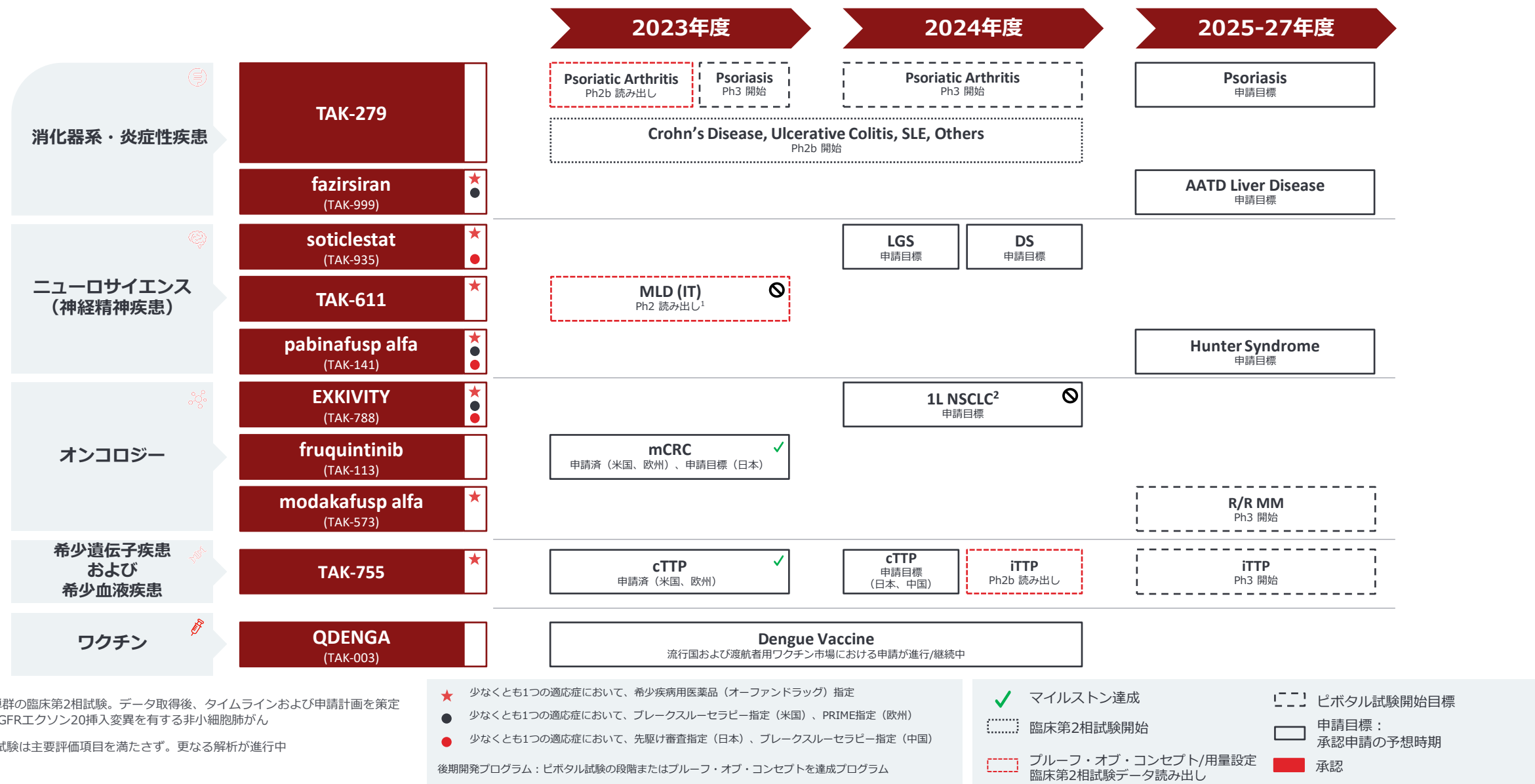
TAK-925 (danavorexton)
静注オレキシン受容体作動薬 術後の麻酔からの回復

2024年度：臨床第2相試験/POC 読み出し予定
臨床第3相試験への進展を判断

次世代経口薬

2023年度：治験許可申請（IND）目標

今後転換点を迎える有望な後期開発プログラム



AGENDA

Introduction

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO

パイプラインアップデート

アンディー・プランプ

リサーチ&デベロップメント

プレジデント

財務報告

コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル オフィサー



質疑応答

力強い年度の始まり、通期見通しは変更なし



2023年度第1四半期（4-6月）

トップライン

- ・ 売上収益 10,586億円（73億米ドル）¹ +3.7%成長（CER²ベース） 実勢レートベースで+8.9%成長
- ・ 成長製品・新製品+16.2%成長（CERベース） 売上収益全体の40%を占める

利益・利益率

- ・ Core営業利益 3,263億円（23億米ドル）^{1, 3} Core営業利益率は30.8%
- ・ 財務ベース営業利益 1,686億円

キャッシュ・フロー

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フロー 924億円（+9.7%増加）、フリー・キャッシュ・フロー △2,075億円（△14億ドル）^{1, 4}
フリー・キャッシュ・フローは、TAK-279の取得およびfruquintinibの導入を含む支出2,233億円を反映
通期フリー・キャッシュ・フロー予想4,000-5,000億円に変更なし
- ・ ムーディーズが格付けをBaa1に引き上げ、強固な財務基盤を反映

2023年度通期見通し

- ・ 日本のAZILVA（6月）および米国のVYVANSE（8月予定）の後発品参入を反映した通期マネジメントガイダンスに変更無し
- ・ 財務ベースおよびCoreの業績予想に変更はないものの、現在の為替水準が継続した場合は上振れの可能性あり

1. 為替レートに関する免責事項は2ページをご参照下さい。

2. Constant Exchange Rate：恒常為替レート。定義はA-1ページをご参照下さい。

3. Core財務指標の定義はA-1ページ、調整表はA-5、A-6ページをご参照下さい。

4. 定義はA-1ページ、調整表はA-7ページをご参照下さい。

成長製品・新製品が牽引し、第1四半期売上収益+3.7%成長（CERベース） Core営業利益率30.8%を達成



2023年度第1四半期（4-6月） 連結業績（サマリー）

(億円、EPSを除く)	財務ベース	
	2023年度 第1四半期累計	実勢レートベース 増減率（%）
売上収益	10,586	+8.9%
営業利益	1,686	+12.0%
営業利益率	15.9%	+0.4pp
当期利益	894	△14.9%
EPS	58円	△15.4%
営業活動による キャッシュ・フロー	924	+9.7%
フリー・キャッシュ・フロー ³	△2,075	—

CORE ¹		
2023年度 第1四半期累計	実勢レートベース 増減率（%）	CERベース ² 増減率（%）
10,586	+8.9%	+3.7%
3,263	+2.3%	△2.0%
30.8%	△2.0pp	
2,334	+4.1%	+0.9%
150円	+3.5%	+0.3%

- フリー・キャッシュ・フローは、TAK-279の取得およびfruquintinibの導入を含む支出2,233億円を反映
通期フリー・キャッシュ・フロー予想4,000-5,000億円に変更なし

1. Core財務指標の定義はA-1ページ、調整表はA-5、A-6ページをご参照下さい。
2. Constant Exchange Rate：恒常為替レート。定義はA-1ページをご参照下さい。
3. 定義はA-1ページ、調整表はA-7ページをご参照下さい。

成長製品・新製品の売上収益は+16.2%成長（CERベース） 売上収益全体の40%を占める



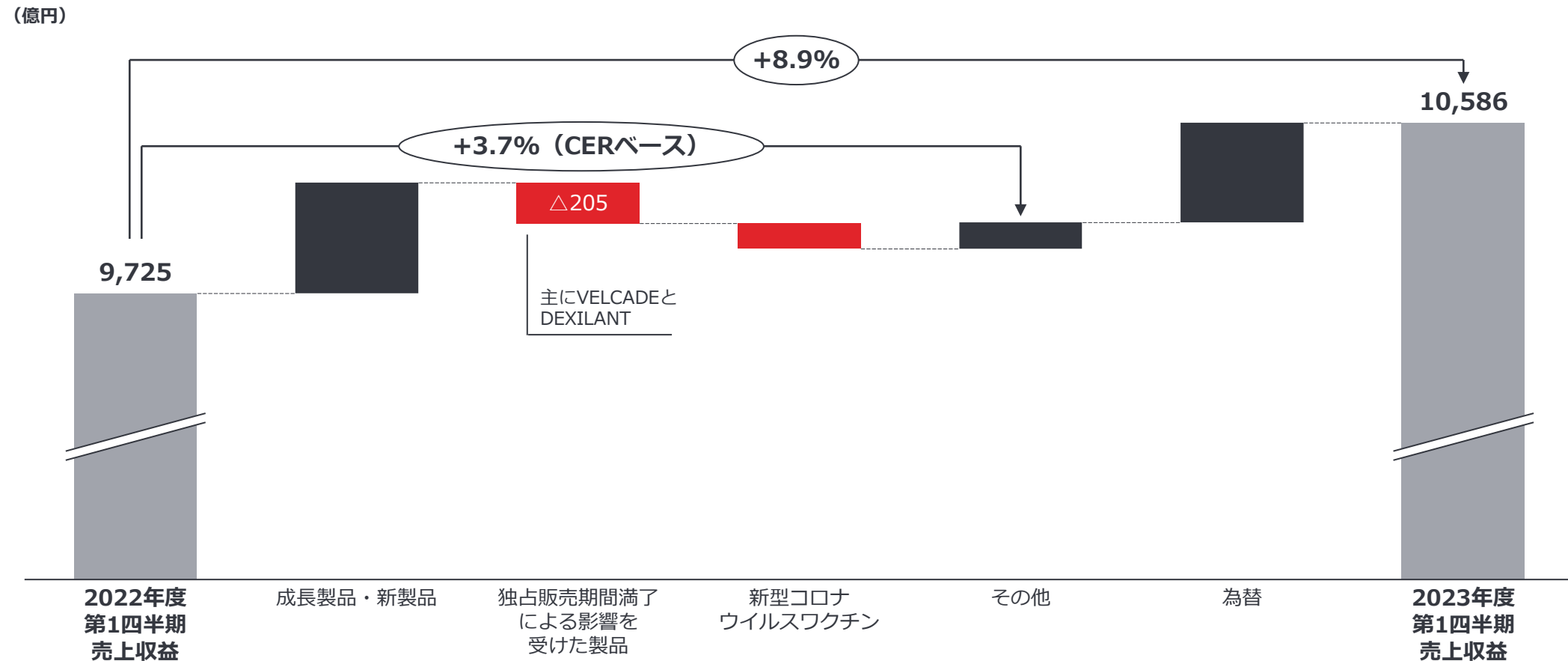
2023年度
第1四半期
売上収益

	 消化器系疾患 対売上収益比：28% 対前年比：+3%	 希少疾患 対売上収益比：18% 対前年比：+2%	 血漿分画製剤 (PDT) 免疫疾患 対売上収益比：18% 対前年比：+24%	 オンコロジー 対売上収益比：10% 対前年比：△9%	 ニューロサイエンス (神経精神疾患) 対売上収益比：17% 対前年比：+17%	その他 対売上収益比：9% 対前年比：△20%
成長製品・ 新製品	 +7%  +31%	 +15%  +71%	 +23%  +36%	 +41%  +192%		 新製品
2023年度第1四半期売上収益 計4,241億円（29億米ドル ¹ ）、昨年度比増分 799億円（6億米ドル ¹ ）						
その他 主要製品	Takecab/Vocinti® Gattex/Revestive®	Advate® Adynovate/Adynovi® Vonvendi® Elapraxe® Vpriv® Replagal® (欧州、日本)	Glassia® Aralast®	Ninlaro® Iclusig® Adcetris® (北米を除く) Leuporelin Zejula® (日本) Cabometyx® (日本) Vectibix® (日本)	Vyvanse® Trintellix® (米国、日本)	Azilva® (日本) Spikevax® (日本) Nuvaxovid® (日本)

第1四半期の売上収益は+3.7%成長（CERベース） 為替のプラス影響を含め+8.9%成長



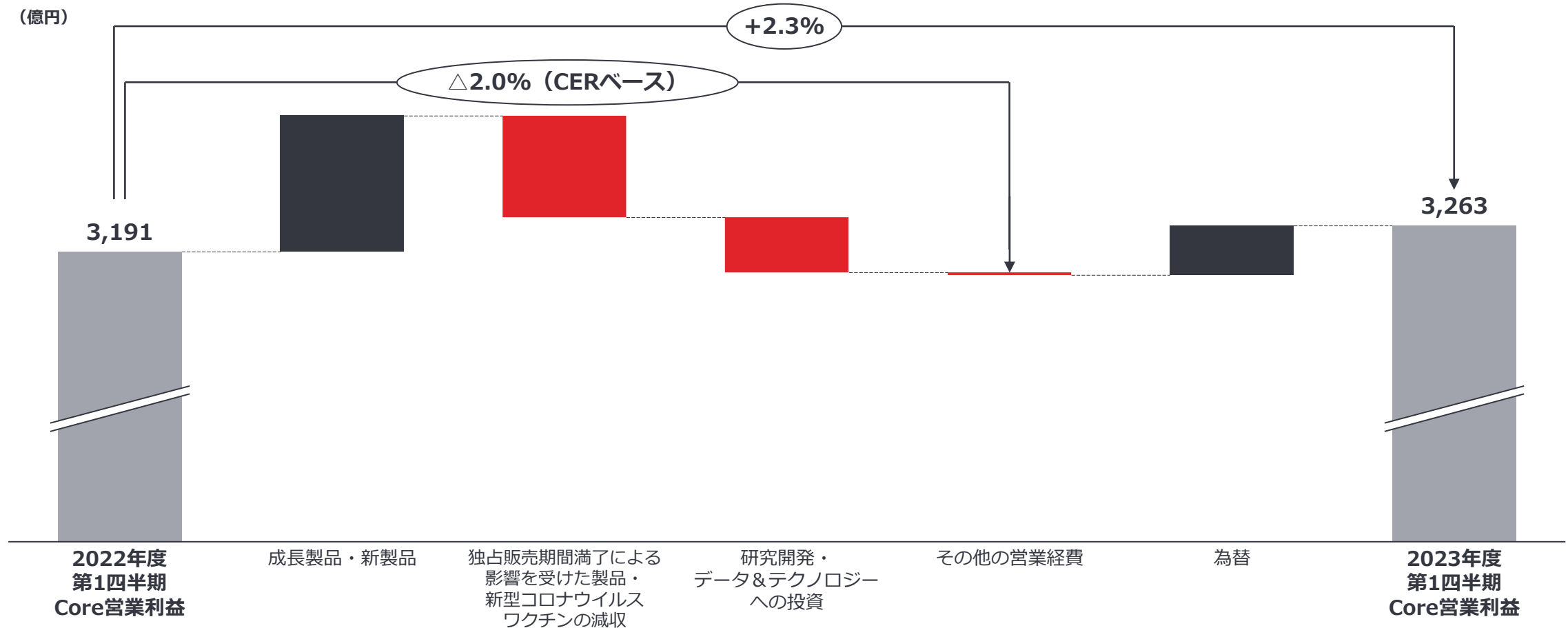
2023年度第1四半期 売上収益（対前年度）



Core営業利益は、製品ミックスおよび研究開発とデータ&テクノロジーへの投資の増加が影響



2023年度第1四半期 CORE営業利益（対前年度）



2023年度の通期予想およびマネジメントガイダンスに変更なし



- 独占販売期間満了と新型コロナウイルスワクチンの減収の影響に関わらず、Core営業利益は1兆円超えの見通し
- 現在の為替水準が継続した場合、財務ベースとCoreの業績予想に対する上振れ要因となる可能性

(億円、EPSを除く)	財務ベース		CORE		CORE増減率（CERベース） 2023年度マネジメントガイダンス
	2023年度予想	対前年度	2023年度予想	対前年度	
売上収益	38,400	△4.7%	38,400	△4.7%	一桁台前半%の減少
営業利益	3,490	△28.8%	10,150	△14.6%	10%台前半の減少
EPS (円)	91円	△55.6%	434円	△22.2%	20%台前半の減少

フリー・キャッシュ・フロー	4,000 – 5,000
1株当たり年間配当金	188円

- フリー・キャッシュ・フローの予想には、Nimbus社からのTAK-279の取得（10億米ドル）¹ およびHutchmed社からのfruquintinibの導入（4億米ドル）に関連する支出を反映

2023年度業績予想の主な前提：

- 2023年6月の日本におけるAZILVA、2023年8月の米国におけるVYVANSEを含め、独占販売期間満了による影響で約3,300億円の減収（CERベース）を想定
- 為替の前提は、131円/米ドル、141円/ユーロを想定。為替感応度については、A-15ページをご参照下さい

本スライドには国際会計基準に準拠しない財務指標が含まれます。定義および調整表は参考資料をご参照下さい。
 2023年度の業績予想の詳細はA-13ページをご参照下さい。
 1. TAK-279の取得に関連する一時金40億米ドルのうち、2023年4月に支払った金額（9億米ドル）および2023年8月に支払い予定の金額（1億米ドル）を指します。

質疑応答



クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO



アンディー・プランプ

リサーチ&デベロップメント
プレジデント



コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル
オフィサー



ラモナ・セケイラ

グローバルポートフォリオ ディビジョン
プレジデント



ジュリー・キム

U.S. ビジネスユニット
プレジデント



ジャイルズ・プラットフォード

プラズマ ディライブド セラピーズ
ビジネスユニット
プレジデント

APPENDIX





DEXILANTの独占販売期間満了によるマイナス影響を受けたものの ENTYVIOの成長が引き続き消化器系疾患フランチイズの拡大を牽引

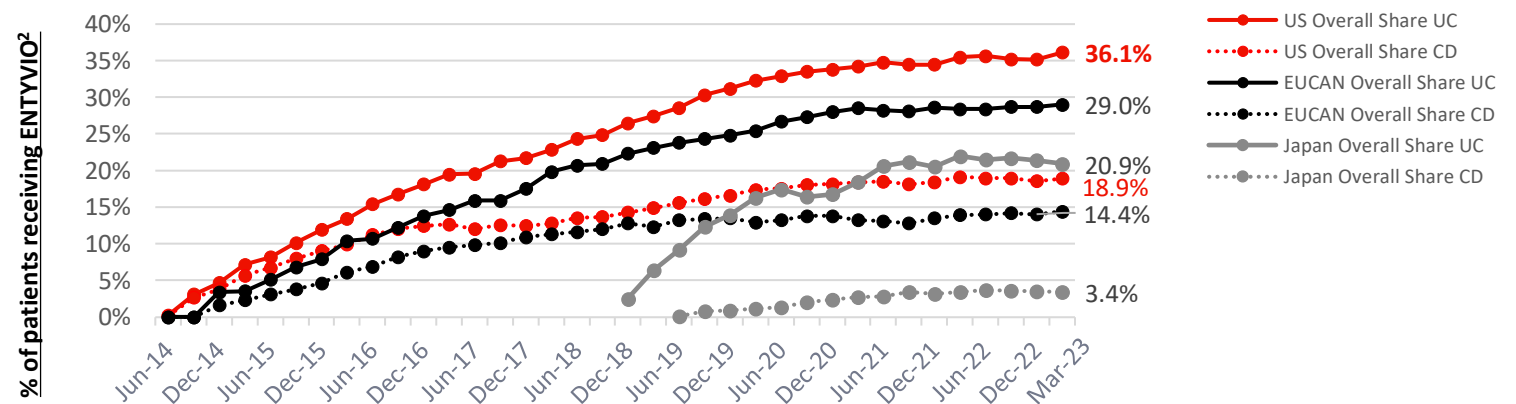
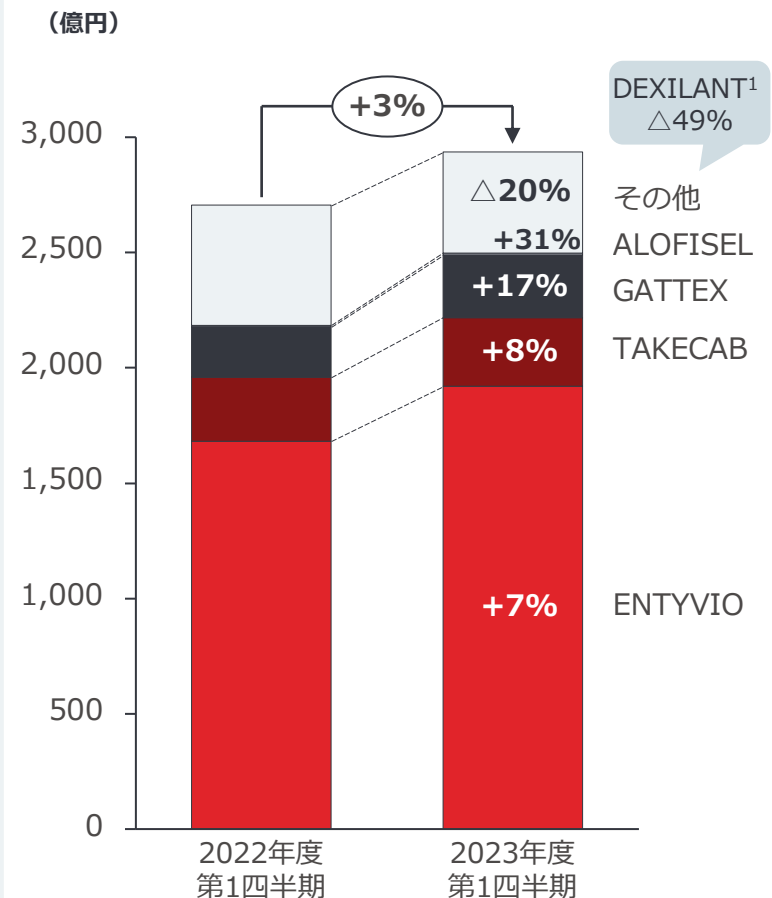
消化器系疾患 ポートフォリオ

2023年度第1四半期 売上収益



2023年度第1四半期売上収益 1,920億円 (+7.1%成長)

- 2023年度第1四半期の売上収益は、1桁台の市場成長、前年の米国における出荷タイミング時期による影響、世界的な競争激化、EUCANにおける価格引き下げの影響を受け、+7.1%の成長
 - Entyvioは、米国における炎症性腸疾患の市場全体および生物学的製剤ナイーブの患者さんへ新規に処方された治療薬の両方で第1位を維持
 - EUCANでは、Entyvioの処方量は堅調な伸びを維持、投与患者数は15%以上増加し、炎症性腸疾患における先進的治療薬の市場全体の伸びを上回る
- 皮下投与製剤－欧州での上市以来、成長を牽引。日本では2023年6月に上市し、発売当日に最初の患者さんが治療開始。米国では2023年4月に承認申請が受理された
- 併用療法におけるVedolizumabのバックボーン治療薬としての可能性など、重要な臨床的課題を評価するライフ・サイクル・マネジメントに投資。最適な治療目標や投与順序を探索することで、患者さんの転帰や疾患経過に変革をもたらす



EUCAN : 欧州・カナダ

1. 2023年1月より米国市場において後発品の参入が開始。

2. 米国 : SHA Medical and Pharmacy Claims data ; EUCAN : 社内推定 ; 日本 : JMDC

EUCANにおける市場シェアは前四半期までの算出方法から変更し、より正確に潰瘍性大腸炎とクローン病の患者割合を反映。

Entyvio：継続的なエビデンス構築および適応拡大



臨床第3相試験

論文掲載/学会発表

申請済

承認済

潰瘍性大腸炎

ENTYVIO®
静注製剤、adalimumabとの直接比較試験
(VARSITY) ¹

ENTYVIO®
静注製剤、小児適応（グローバル）

ENTYVIO®
皮下投与製剤（米国）

ENTYVIO®
静注製剤（グローバル）

ENTYVIO®
皮下投与製剤（欧州、日本）

クローン病

ENTYVIO®
皮下投与製剤（米国）

ENTYVIO®
静注製剤、小児適応（グローバル）

ENTYVIO®
皮下投与製剤（日本）

ENTYVIO®
静注製剤（グローバル）

ENTYVIO®
皮下投与製剤（欧州）

回腸囊炎

ENTYVIO®
静注製剤（欧州）

移植片対宿主病

ENTYVIO®
静注製剤（グローバル） ² ★

追加エビデンスの構築を計画中

承認済 論文掲載/学会発表 継続中の試験または申請済

★ 希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）指定の可能性

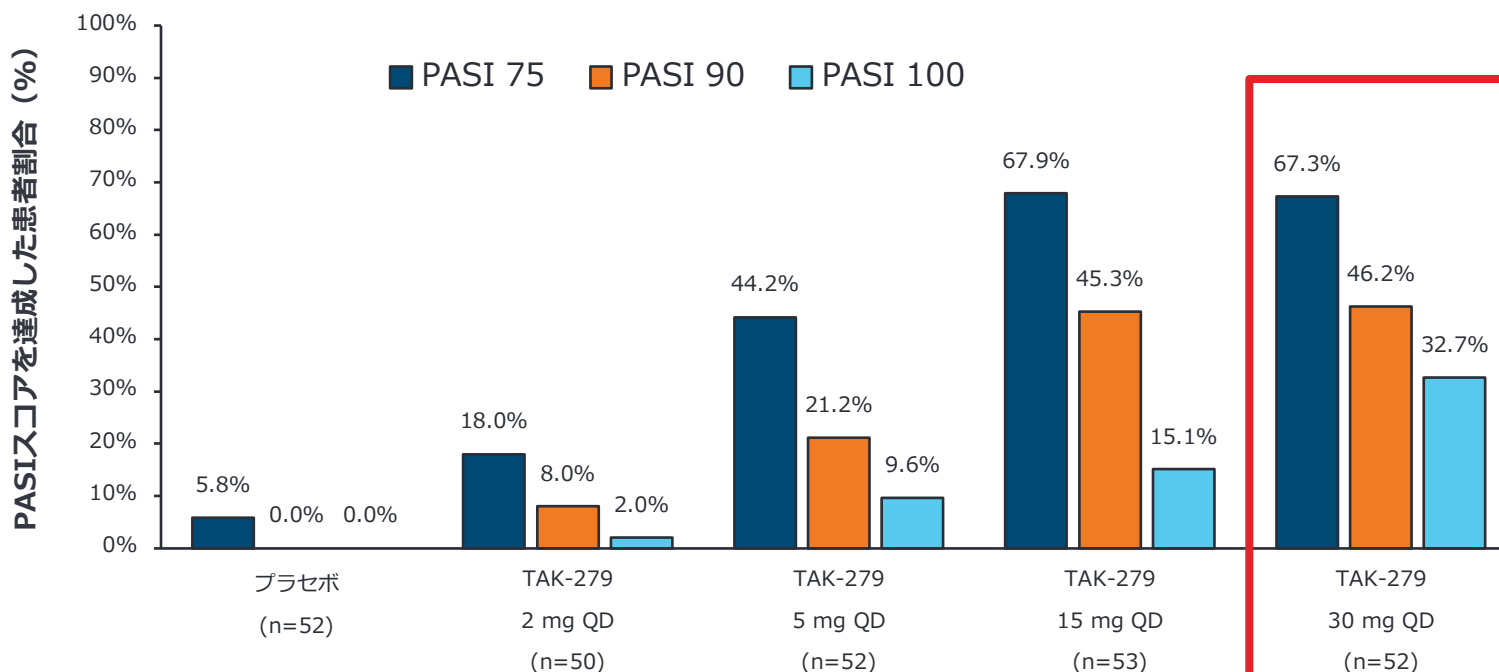
1. Sands BE et al. N Engl J Med 2019;381:1215-26.
2. Chen YB et al., Transplantation & Cellular Therapy Meetings of ASTCT and CIBMTRにおいて発表（2023年2月18日）



TAK-279：臨床第2b相試験の成績は、 乾癬治療の経口剤としてベストインクラスの可能性を示唆



12週時点においてPASI 75、90または100を達成した患者割合¹



まとめ

- 優れた有効性：30mg投与群の33%の患者さんが12週時点で皮膚病変の完全な消失 (PASI 100) を達成
- 試験治療下で発現した有害事象はおおむね低頻度
 - 最も頻度高く発現：COVID-19、ざ瘡、ざ瘡様皮膚炎および下痢
- JAKキナーゼよりもTYK2に対して高い選択性
 - 約150万倍
 - 忍容性に優れ、1日1回経口投与

2028年の市場規模の推定²

- 乾癬 300億米ドル
- 炎症性腸疾患 300億米ドル
- 乾癬性関節炎 70億米ドル

2023年度

乾癬 – 2つの臨床第3相試験 開始

乾癬性関節炎 – 臨床第2b相試験 データ読み出し

2024年度

乾癬性関節炎 – 臨床第3相試験 開始

乾癬 直接比較 – 臨床第3相試験 開始

クローン病 – 臨床第2b相試験 開始

潰瘍性大腸炎 – 臨床第2b相試験 開始

全身性エリテマトーデス – 臨床第2b相試験 開始

その他の適応症 – 臨床第2相試験 開始

2025-27年度

乾癬
申請目標

今後のステップ

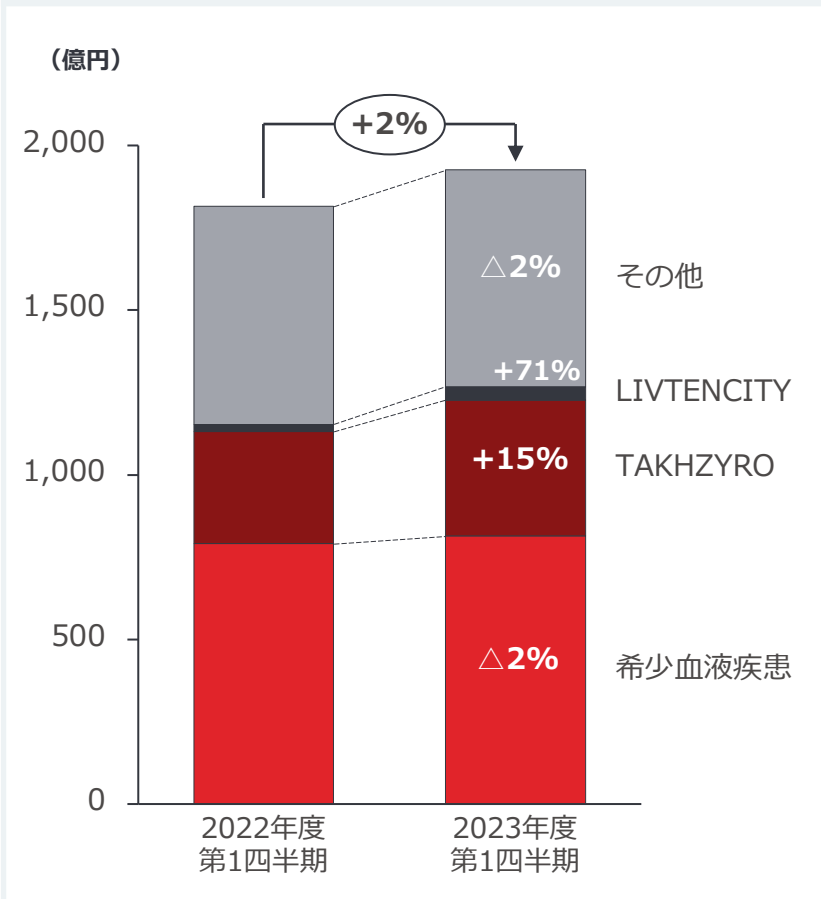


TAKHZYROは力強い勢いが継続 LIVTENCITYの米国における順調な市場浸透と急速な地理的拡大



希少疾患 ポートフォリオ

2023年度第1四半期 売上収益



2023年度第1四半期売上収益 413億円 (+14.7%成長)

- TAKHZYROは、56カ国での上市と米国における継続した需要に支えられ、2022年度の力強い勢いを維持
- 米国において小児を対象としたTAKHZYROの使用が可能となり、2歳以上の小児患者さんの発作予防の適応症を有する初めての遺伝性血管性浮腫（HAE）治療薬となる
- 日本では新医薬品としての長期処方制限が解除され、市場における成長を継続
- HELP試験およびHELP-OLE試験の結果と同様に、EMPOWER試験およびENABLE試験において、2年以上にわたる発作の減少、一貫した安全性、QOLの改善が確認され、強固な実臨床エビデンスを構築



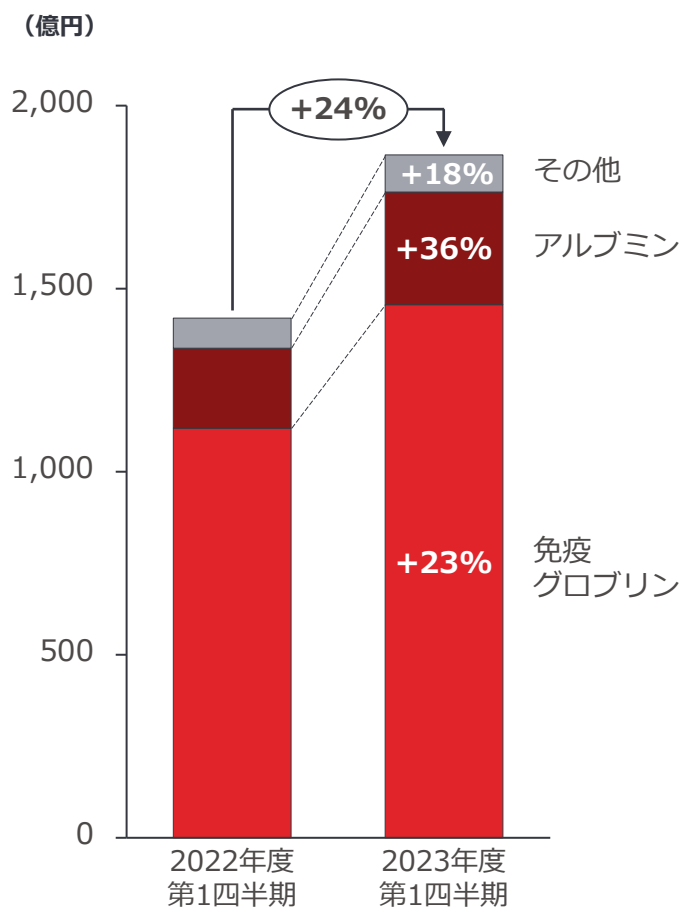
2023年度第1四半期売上収益 41億円 (+70.7%成長)

- LIVTENCITYは、力強い立ち上がりが継続。急速な使用拡大、使用可能施設の増加、各移植センターにおける浸透への注力（全診療科への処方の拡大）および高いアンメット・ニーズを裏付ける良好なマーケットアクセスの傾向が牽引
- 米国における実臨床の医師の判断による使用期間は、当初の想定よりも大幅に長期*にわたり、移植後難治性サイトメガロウイルス（CMV）感染症に対する使用パターンが不均一であることから対象患者さんがより幅広くなる可能性
- 2022年11月の欧州委員会による承認後、急速な地理的な拡大が継続
LIVTENCITYは、欧州15カ国において上市済みであり、国家保険償還あるいはIndividual Funding Request制度を含む部分償還の対象となる

血漿分画製剤ポートフォリオは引き続き卓越した成長を実現

血漿分画製剤（免疫疾患）ポートフォリオ

2023年度第1四半期 売上収益



免疫グロブリン製剤

2023年度第1四半期売上収益 1,456億円（+22.5%成長）

- 米国を筆頭に世界的に強い需要が継続し、供給も安定的に増加
- 皮下投与製剤のポートフォリオは継続的に拡大し、二桁台の成長率

GAMMAGARD LIQUID
[Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%

Kiovig
Human Normal Immunglobulin (IVIg)

HyQvia
Human Normal Immunglobulin (70%)
Recombinant Human Hyaluronidase

Cuvitru
[Immune Globulin Subcutaneous (Human)] 20%

アルブミン製剤

2023年度第1四半期売上収益 308億円（+36.0%成長）

- 昨年に引き続き堅調に成長、特に中国においてアルブミン製剤に対し高い需要
- 第1四半期の成長は、2022年度第1四半期に発生した中国におけるロックダウンによる売上減少からの回復が牽引。2023年度通期の成長率は予想見込みの水準になると想定（+5-15%成長（CERベース））

Flexbumin
(Human Albumin)

HUMANALBUMIN
SOLUTION FOR INFUSION

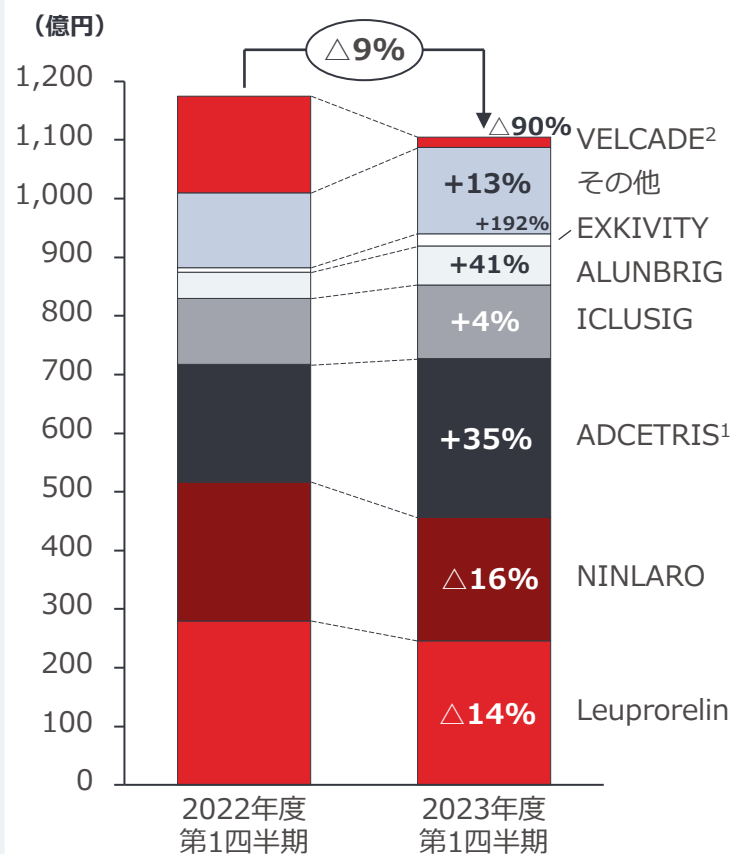
バリューチェーン全体にわたる能力拡大のための投資を継続

- 当社の血漿収集拠点は、2023年度第1四半期に3センター増加し、現在グローバルで236センター。2023年度末までに20センター以上の新規開設を計画
- 2023年度の血漿収集量+10-20%増加目標に向けて想定通りに進捗
- パンデミック禍で大幅に上昇した血漿成分献血者への報酬は、2022年度以降減少傾向が続く
- 血漿からの成分収集量の改善や、製造能力の拡大および効率化を図るため、データ、デジタル、テクノロジーを活用し、製造ネットワーク全体でターゲットを絞った投資を行う

オンコロジー領域の成長率はVELCADEの後発品参入が影響 VELCADEを除くポートフォリオは+5%成長（CERベース）

オンコロジーポートフォリオ

2023年度第1四半期 売上収益



- 中国の国家医療保険償還医薬品リスト（NRDL）への収載を含め、現在グローバルの40カ国において一次治療として保険償還の対象となる
- 欧州では、過去1年間で一次治療の新規投与症例におけるシェアを大幅に拡大しており、新規患者さんの1/3以上がALUNBRIGによる治療を受けている



- ECHELON-1試験の6年間の全生存期間（OS）データに基づくホジキンリンパ腫の一次治療（ドイツ、スペイン、イタリア）および再発/難治性ホジキンリンパ腫（中国）で力強い成長を継続



- 臨床第3相PARADIGM試験より、転移性大腸がんのRAS野生型患者さんのうちトリプル野生型群において統計学的に有意な改善を示すサブ解析を米国臨床腫瘍学会（ASCO）で口頭発表



- 臨床第3相EXCLAIM-2試験は無益性解析の結果に基づき中止、各国の規制当局と協議中

絶対値は国際会計基準（IFRS）財務ベース、
対前年比はCERベース（定義はA-1ページをご参照下さい）。
疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

1. ADCETRISはSeagen社より導入；北米外でのグローバル共同開発・販売権を保有。
2. 2022年5月より米国市場において後発品の参入開始。
3. VECTIBIXはアムジェン社より導入；日本での販売権を保有。

8月に想定されるVYVANSEの独占販売期間満了を前に ニューロサイエンスフランチャイズは力強い成長



ニューロサイエンス ポートフォリオ

2023年度第1四半期 売上収益



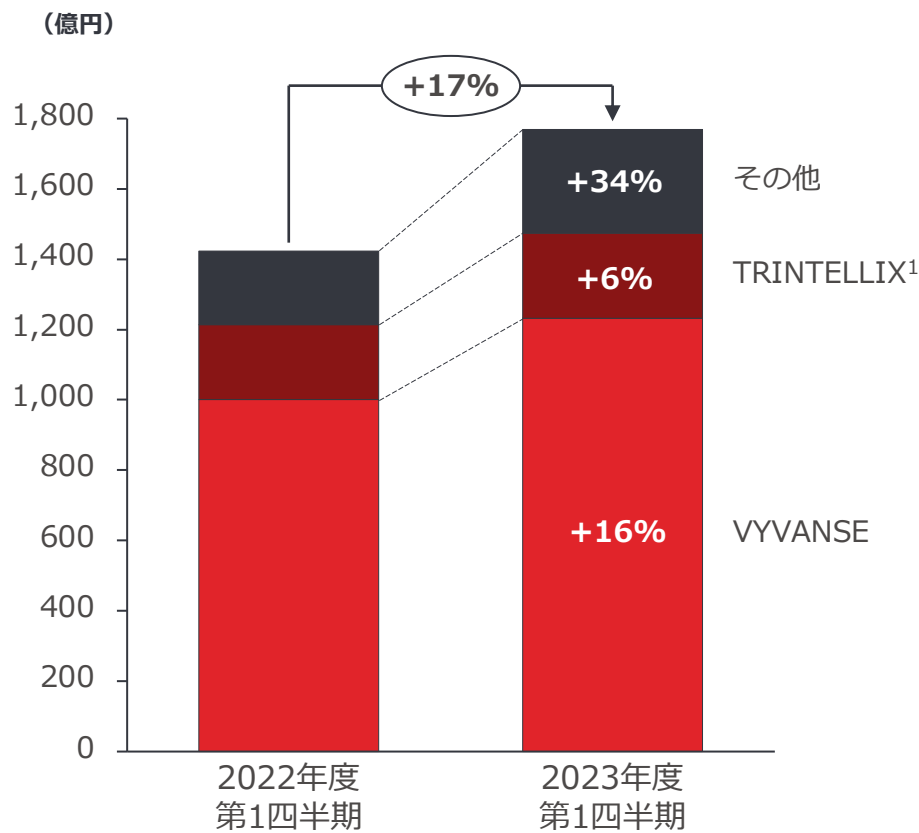
2023年度第1四半期売上収益 1,232億円 (+16.0%成長)

- 2023年度第1四半期の米国における成長は、成人ADHD市場の拡大による牽引および他のADHD治療薬の後発品の供給不足が影響
- 米国における独占販売期間満了による影響は、2023年8月下旬からを想定



2023年度第1四半期売上収益 243億円 (+6.3%成長)

- 安価なジェネリック医薬品（市場の約99%を占める）が市場を牽引し、米国における抗うつ剤市場の成長はパンデミック以前の水準（約1-2%）に戻った
- 米国において、処理速度（大うつ病で障害される可能性がある認知機能）を含む TRINTELLIXの有効性ストーリーに焦点をあてた戦略的なポジショニングを改めて実施するとともに、販売部門の活動とオムニチャネル型の情報活動は短期から中期にかけた新規投与症例数および市場全体における需要を牽引すると想定
- 日本においては、精神科医の間で初回治療として選択される治療薬として確かなポジショニングが確立されつつあり、薬効市場内のTRINTELLIXのシェアは引き続き上昇



1. TRINTELLIXはLundbeck社より導入；米国と日本で共同販売権を保有。

短期に予定する重要なライフ・サイクル・マネジメントの拡大がもたらす 大きな成長機会



	2023年度	2024年度
消化器系・炎症性疾患	ENTYVIO® 申請目標 皮下投与製剤 CD（米国） ALOFISEL® 申請目標 複雑痔瘻（米国）	maralixibat 申請目標 ALGS、PFIC（日本）
オンコロジー	ICLUSIG® 申請目標 1L Ph+ ALL（米国） CABOMETYX® 申請目標 CRPC（日本）	
希少遺伝子疾患 および 希少血液疾患	LIVTENCITY® 申請目標 R/R CMV（日本）¹	
血漿分画製剤	HYQVIA® 申請目標 PID（日本） TAK-880 申請目標 RTU IgG低IgA（欧州） GAMMAGARD LIQUID® 申請済 CIDP（米国）	HYQVIA® 申請目標 CIDP、MMN（日本）

1. 移植後サイトメガロウイルス（CMV）感染/感染症

承認済 申請目標 マイルストーン達成

2023年度：新規候補物質および適応拡大による複数の承認取得の可能性



主な承認の可能性	ENTYVIO SC	潰瘍性大腸炎 クローン病	米国 承認 日本 承認	
	QDENG	デング熱ワクチン	米国 承認 ¹ 流行国 ²	× ✓
	TAK-755	先天性血栓性血小板減少性紫斑病（cTTP）	米国 承認	
	fruquintinib	転移性大腸がん	米国 承認	
	TAKHZYRO	小児の遺伝性血管性浮腫（HAE）	欧州 承認	
	HYQVIA	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）	米国 承認 欧州 承認	
	HYQVIA	HyHub AVA ³ デバイス	米国クリアランス ⁴	→
	HYQVIA	小児の原発性免疫不全症候群（PID）	米国 承認	✓
主な臨床第3相試験/ ピボタル試験読み出し	GAMMAGARD LIQUID	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）	米国 承認	
	ALOFISEL	複雑痔瘻	臨床第3相試験（米国）	
	maralixibat	アラジール症候群（ALGS） 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症（PFIC）	臨床第3相試験（日本） 臨床第3相試験（日本）	

1. 米国で承認申請を自主的に取り下げ。
2. 2023年4月にアルゼンチン、2023年5月にタイで承認済み。
3. HyHub：使い捨ての改良型無菌バイアルアクセス医療デバイスで、HYQVIAのバイアルから皮下組織への投与を簡便化。
4. 承認申請を取り下げ、再申請の時期を検討中。

臨床試験データの「読み出し」とは、以下のいずれかの場合を指す：

（1）該当する臨床データの取得、（2）取得した臨床データに対する必要な分析およびレビューの完了、（3）（要請される場合または通常の慣例や実務慣行に基づく場合）取得したデータについて該当する規制当局との協議

- ✓ マイルストーン達成
- マイルストーン遅延
- × マイルストーン未達成

中期開発パイプラインではデータに基づく意思決定を実行



ブルーフ・オブ・コンセプト (POC) : POCの達成は、ピボタル試験または後期開発プログラムを開始するのに十分な臨床データが得られたことを意味する。臨床試験データの「読み出し」とは、以下のいずれかの場合を指す：

(1) 該当する臨床データの取得、(2) 取得した臨床データに対する必要な分析およびレビューの完了、(3) (要請される場合または通常の慣例や実務慣行に基づく場合) 取得したデータについて該当する規制当局との協議

読み出しが複数のPOC試験に関連する適応症クラス (例、固形がん) を指す場合は、以下のいずれか早い方のタイミング：

(1) 当該適応症クラス初めてのPOC達成、または (2) 当該適応症クラスにおける全てのPOC試験の結果を取得

- 主な早期段階のマイルストーン
- ブルーフ・オブ・コンセプトのデータ読み出し目標
- ★ 少なくとも1つの適応症において、希少疾病用医薬品 (オーファンドラッグ) 指定
- 少なくとも1つの適応症において、先駆け審査指定 (日本)、ブレイクスルーセラピー指定 (中国)
- ✓ マイルストーン達成

臨床開発パイプライン一覧表（フェーズ別）



臨床第1相試験（新規候補物質14品目+LCM1件）

臨床第2相試験（新規候補物質18品目+LCM1件）

消化器系・炎症性疾患

TAK-647
NASH¹

ニューロサイエンス
（神経精神疾患）

TAK-920
Alzheimer's Disease

オンコロジー
+ 細胞療法

TAK-012
Acute myeloid
leukemia¹

TAK-102
Solid tumors

TAK-103
Solid tumors

TAK-186
EGFR Solid Tumor⁴

modakafusp alfa ★
Solid tumors

TAK-940
CD19+ hematologic
malignancies

TAK-500
Solid tumors

TAK-676
Solid tumors

TAK-280
B7-H3 Solid Tumor⁴

ICLUSIG®
Pediatric Ph+ ALL

希少遺伝子疾患
および
希少血液疾患

TAK-755 ★
SCD

mezagitamab ★
IgAN

血漿分画製剤

ワクチン

TAK-426
Zika Vaccine

TAK-279
Psoriasis

TAK-101
Celiac Disease

TAK-951
Nausea & vomiting

TAK-279
Psoriatic Arthritis

TAK-227
Celiac Disease

zamaglutinase²
Celiac Disease

TAK-861 ★
NT1

TAK-611
MLD (intrathecal)

TAK-041
Anhedonia in MDD

TAK-653
Inadequate resp.
in MDD

TAK-071
Parkinson's Disease

TAK-861 ★
NT2

danavorexton³ ★
Postanesthesia
recovery

TAK-341 ★
MSA

TAK-594 ★
Frontotemporal
dementia

modakafusp alfa ★
R/R MM

subasumstat ★
Multiple cancers

TAK-007 ★
CD19+ hematologic
malignancies

mezagitamab ★
MG

mezagitamab ★
ITP

TAK-755 ★
iTTP

TAK-881
Immunodeficiencies

1. 患者登録中の試験
2. ZamaglutinaseはTAK-062の国際一般名称
3. DanavorextonはTAK-925の国際一般名称
4. 現在、臨床第1/2相試験の第1相パート

全てのタイムラインは2023年7月27日時点におけるおおよその予測で、変更される場合があります、また臨床試験・承認申請の結果に左右されます。表中は包括的なものではありません。
疾患名等の略語用語集は参考資料をご参照下さい。

★ 希少疾患用医薬品（オーファンドラッグ）の指定の可能性（いずれかの地域 / 適応症）

新規候補物質

LCM

臨床開発パイプライン一覧表（フェーズ別）



臨床第3相試験（新規候補物質7品目+LCM23件）

申請（新規候補物質2品目+LCM16件）

消化器系・炎症性疾患

ニューロサイエンス （神経精神疾患）

オンコロジー + 細胞療法

希少遺伝子疾患 および 希少血液疾患

血漿分画製剤

ワクチン

fazirsiran AATD Liver Disease ★	ENTYVIO® Pediatric UC	ENTYVIO® GvHD Prophylaxis ★	ALOFISEL® Perianal Fistulas in CD (US) ★	maralixibat ALGS (JP) ★
ENTYVIO® SC CD (US)	ENTYVIO® Pediatric CD	ALOFISEL® Pediatric perianal Fistulas in CD ★	maralixibat PFIC (JP) ★	
soticlestat DS ★	soticlestat LGS ★	pabinafusp alfa Hunter Syndrome ★		
EXKIVITY® 1L NSCLC EGFR exon 20 ★	fruquintinib mCRC (JP)	ICLUSIG® 1L Ph+ ALL (US)		
NINLARO® Maint. ND MM post-SCT (US, EU) ★	relugolix Prostate cancer (JP, CN)	CABOMETYX® mCRPC combo w/atezolizumab (JP)		
TAK-755 cTTP (JP, CN) ★	LIVTENCITY® Post-transplant CMV infection (JP) ★	ADYNOVATE® recombinant Factor VIII HemA (CN)		
VONVENDI® vWD Adult Prophylaxis (CN) ★	VONVENDI® vWD Pediatric On-demand & Surgery ★	ADYNOVATE® recombinant Factor VIII Pediatric HemA (EU)		
HYQVIA® CIDP, MMN (JP) ★	HYQVIA® PID (JP)	Prothromplex DOAC Reversal (US)		
TAK-880 IgG – Low IgA (EU) ¹	Glovenin-I Autoimmune Encephalitis (JP) ★			
Nuvaxovid® COVID-19 Vaccine Booster (JP)	QDENGAR® Dengue Vaccine Booster			

ENTYVIO® SC UC (US)	VOCINTI® H. Pylori (CN)			
ENTYVIO® SC CD (JP)				
fruquintinib mCRC (US)	ADCETRIS® FL HL Stage III (EU)	ADCETRIS® R/R CTCL (JP) ★		
fruquintinib mCRC (EU)	ADCETRIS® FL PTCL-NOS (EU) ★			
TAK-755 cTTP (US) ★	OBIZUR® Recomb antihemophilic factor porcine (JP) ★	VONVENDI® vWD On-demand & Surgery (CN) ★	TAKHZYRO® Pediatric HAE (EU) ★	
TAK-755 cTTP (EU) ★	OBIZUR® Recomb antihemophilic factor porcine (CN) ★	VONVENDI® vWD Adult Prophylaxis (EU) ★		
HYQVIA® CIDP (US) ★	CUVITRU® PID, SID (JP)	GAMMAGARD LIQUID® CIDP (US)		
HYQVIA® CIDP (EU) ★	CEPROTIN® SCPCD (JP)			

1. 米国にて、TAK-880はFDAよりCRLを受領。再申請の時期を検討中。

★ 希少疾患用医薬品（オーファンドラッグ）の指定の可能性（いずれかの地域 / 適応症）

承認済

新規候補物質

LCM

略語の用語集



地域に関する略語:
CN: 中国; EU: 欧州; JP: 日本; UK: 英国; US: 米国

AAD	American Academy of Dermatology（米国皮膚科学会）
AATD	α 1-antitrypsin deficiency（ α 1アンチトリブシン欠乏症）
AATD LD	α 1-antitrypsin deficiency associated liver disease （ α -1アンチトリブシン欠乏症による肝疾患）
ADAMTS13	a disintegrin-like and metalloproteinase with a thrombospondin type 1 motifs 13 （トロンボスポンジン1型モチーフ13を有するディスインテグリンおよびメタロプロテイナーゼ）
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder （注意欠陥多動性障害）
ALGS	Alagille syndrome（アラジール症候群）
ALK	anaplastic lymphoma kinase（未分化リンパ腫キナーゼ）
ALL	acute lymphocytic leukemia（急性リンパ性白血病）
AVA	advanced vial access（改良型バイアルアクセス）
BLA	biologics license application（生物製剤承認申請）
BTD	breakthrough therapy designation（画期的新薬指定）
CAR NK	chimeric antigen receptor natural killer cell （キメラ抗原受容体-ナチュラルキラー細胞）
CD	Crohn's disease（クローン病）
CHMP	Committee for Medicinal Products for Human Use （欧州医薬品委員会）
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy （慢性炎症性脱髄性多発根神経炎）
CML	chronic myeloid leukemia（慢性骨髄性白血病）
CMV	cytomegalovirus（サイトメガロウイルス）
CPF	complex perianal fistulas（複雑痔瘻）
CRC	colorectal cancer（大腸がん）
CRL	complete response letter（審査完了報告通知）
CRPC	castrate-resistant prostate cancer （去勢抵抗性前立腺がん）
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma（皮膚T細胞性リンパ腫）
cTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura （先天性血栓性血小板減少性紫斑病）
DOAC	direct oral anti-coagulation（直接作用型経口抗凝固薬）
DS	Dravet syndrome（ドラベ症候群）
EASL	European Association for the Study of the Liver （欧州肝臓学会）
EGFR	epidermal growth factor receptor（上皮増殖因子受容体）

EMA	European Medicines Agency（欧州医薬品庁）
ESS	Epworth Sleepiness Scale（エプワース眠気尺度）
FDA	the U.S. Food & Drug Administration（米国食品医薬品局）
FL	front line（フロントライン適応）
FSI	first subject in（最初の患者登録）
FY	fiscal year（年度）
GI	gastrointestinal（胃腸）
GvHD	graft versus host disease（移植片対宿主病）
H2H	head to head（直接比較）
HAE	hereditary angioedema（遺伝性血管浮腫）
HemA	hemophilia A（血友病A）
HSCT	hematopoietic stem cell transplant（造血幹細胞移植）
IARS	International Anesthesia Research Society （国際麻酔学研究学会）
IBD	inflammatory bowel disease（炎症性腸疾患）
IgA	immunoglobulin A（免疫グロブリンA）
IgAN	immunoglobulin A nephropathy（IgA腎症）
IgG	immunoglobulin G（免疫グロブリンG）
IND	investigational new drug（治験薬）
ITP	immune thrombocytopenic purpura （免疫性血小板減少性紫斑病）
INN	international non-proprietary name（国際一般名称）
IRR	incidence rate ratio（発生率比）
ISTH	International Society on Thrombosis and Haemostasis （国際血栓止血学会）
IT	Intrathecal（髄腔内）
iTTP	immune thrombotic thrombocytopenic purpura （免疫性血栓性血小板減少性紫斑病）
IV	intravenous（静脈投与）
JAK	Janus kinase（ヤヌスキナーゼ）
JPNS	Journal of the Peripheral Nervous System （末梢神経学会誌）
LCM	lifecycle management（ライフ・サイクル・マネジメント）
LGS	Lennox-Gastaut Syndrome（レノックス・ガストー症候群）

mCRC	metastatic colorectal cancer（転移性大腸がん）
mCRPC	metastatic castrate-resistant prostate cancer （転移性去勢抵抗性前立腺がん）
MDD	major depressive disorder（大うつ病）
MG	myasthenia gravis（重症筋無力症）
MLD	metachromatic leukodystrophy （異染性白質ジストロフィー）
MM	multiple myeloma（多発性骨髄腫）
MMN	multifocal motor neuropathy（多巣性運動ニューロパチー）
MSA	multiple system atrophy（多系統萎縮症）
MWT	maintenance of wakefulness test（覚醒維持検査）
NASH	non-alcoholic steatohepatitis（非アルコール性脂肪肝炎）
ND	newly diagnosed（新たに診断された）
NDA	new drug application（新薬承認申請）
NEJM	New England Journal of Medicine
NK	natural killer（ナチュラルキラー）
NME	new molecular entity（新規候補物質）
NMPA	(China's) National Medical Products Administration （中国国家薬品监督管理局）
NSCLC	non-small cell lung cancer（非小細胞肺がん）
NT1 or 2	narcolepsy Type 1（ナルコレプシータイプ1） or narcolepsy Type 2（ナルコレプシータイプ2）
PASI	psoriasis area and severity index （乾癬の重症度を表す指標）
PFIC	progressive familial intrahepatic cholestasis （進行性家族性肝内胆汁うっ滞症）
Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia （フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病）
PID	primary immunodeficiency（原発性免疫不全）
PK	pharmacokinetics（薬物動態）
PMDA	Japan's Pharmaceuticals and Medical Devices Agency （医薬品医療機器総合機構）
POC	proof of concept（概念実証）
PRIME	Priority medicines scheme by EMA （EMAによる優先審査制度）
PTCL-NOS	peripheral T-cell lymphoma not otherwise specified （末梢性T細胞リンパ腫 非特定型）
QD	quaque die, every day（1日1回投与）

R/R	relapsed/refractory（再発/難治性）
RTU	ready to use（調製済み）
SC	subcutaneous formulation（皮下投与製剤）
SCD	sickle cell disease（鎌状赤血球症）
SCPCD	severe congenital protein C deficiency （重症先天性プロテインC欠乏症）
SCT	stem cell transplant（幹細胞移植）
SID	secondary immunodeficiency（続発性免疫不全）
SLE	systemic lupus erythematosus （全身性エリテマトーデス）
SOC	standard of care（標準治療）
TEAE	treatment emergent adverse event （試験治療下での有害事象）
TKI	tyrosine kinase inhibitor （チロシンキナーゼ阻害剤）
TTP	thrombotic thrombocytopenic purpura （血栓性血小板減少性紫斑病）
TYK2	tyrosine kinase 2（チロシンキナーゼ2）
UC	ulcerative colitis（潰瘍性大腸炎）
VEGFR	vascular endothelial growth factor receptors （血管内皮増殖因子受容体）
vWD	von Willebrand disease （フォン・ヴィレブランド病）
WCR	weekly cataplexy rate（1週間あたりのカタプレキシ- （情動脱力発作）発現率）
WW	Worldwide（全世界）

財務補足資料



国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標の定義

Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フローの定義

A-1

EBITDA、調整後EBITDA、純有利子負債の定義

A-2

調整表およびその他の財務情報

2023年度第1四半期 財務ベース業績（CERベース増減率を含む）

A-3

2023年度第1四半期 Core業績（CERベース増減率を含む）

A-4

2023年度第1四半期 財務ベースからCoreへの調整表

A-5

2022年度第1四半期 財務ベースからCoreへの調整表

A-6

2023年度第1四半期 フリー・キャッシュ・フロー

A-7

2023年度第1四半期 純有利子負債/調整後EBITDA

A-8

2022年度第4四半期 純有利子負債/調整後EBITDA

A-9

2023年度第1四半期 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整

A-10

2023年度第1四半期 当期利益からEBITDA/調整後EBITDA（LTM）への調整

A-11

2023年度第1四半期 資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失

A-12

2023年度業績予想（詳細）

A-13

2023年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表

A-14

2023年度前提為替レートおよび為替感応度

A-15

Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フローの定義



Core売上収益は、売上収益から、重要性のある本業に起因しない（非中核）事象による影響を控除して算出します。

Core営業利益は、当期利益から、法人所得税費用、持分法による投資損益、金融損益、その他の営業収益及びその他の営業費用、製品に係る無形資産償却費及び減損損失を控除して算出します。その他、非定常的な事象に基づく影響、企業買収に係る会計処理の影響や買収関連費用など、本業に起因しない（非中核）事象による影響を調整します。

Core EPSは、当期利益から、Core営業利益の算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない（非中核）事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動（時間的価値の変動を含む）影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、報告期間の自己株式控除後の平均発行済株式総数で除して算出します。

CER (Constant Exchange Rate : 恒常為替レート)ベースの増減は、当年度の財務ベースの業績もしくはCore業績について、前年度に適用した為替レートを用いて換算することにより、前年度との比較において為替影響を控除するものです。

当社が、**フリー・キャッシュ・フロー**をお示しする理由は、証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻繁に用いられる流動性についての同様の指標として、本指標が投資家の皆様にとって有用であると考えているためです。本指標は、当社の経営陣が特に流動性要件を満たす能力及び資本配分方針をサポートする能力に関連している、当社の流動性及びキャッシュ・フローを評価する際にも使用しています。また、本指標は、投資家の理解にとって、当社の非中核事業及び投資ポートフォリオの戦略的な売却がどのようにキャッシュ・フローや流動性に貢献しているかを理解するうえで有用であると考えています。

当社のフリー・キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローから、有形固定資産の取得、無形資産の取得、投資の取得及び即時的または一般的な業務用に使えないいかなるその他の現金を控除し、有形固定資産の売却による収入、投資や事業の売却による収入、売却による現金及び現金同等物の純額を加算し、調整しています。

フリー・キャッシュ・フローの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i) 製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るもので、(ii) 当社の、資本の使用又は配分を必要とする現在及び将来の契約上その他のコミットメントの影響は反映されていません、(iii) 投資や事業の売却による収入、売却による現金及び現金同等物の純額を加算分は、中核事業となる継続的な事業からの収入は反映していません。フリー・キャッシュ・フローは、IFRSに基づく指標である営業活動によるキャッシュ・フロー及びその他の流動性指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。IFRSに準拠した指標の中で、フリー・キャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローが最も類似します。

EBITDA、調整後EBITDA、純有利子負債の定義



EBITDA及び調整後EBITDA

当社がEBITDA及び調整後EBITDAをお示しする理由は、これらの指標が証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行う際に頻繁に用いられるものであり、有用と考えられることにあります。また、調整後EBITDAは、変化に富み予測が困難であるが故に経営とは無関係な諸要素により不透明となり、業績に実質的な影響を与え得る、また、継続的に期間毎の業績を評価することに困難にし得る事業全体の動向を、投資家の皆様が把握する際に有用と考えられます。

EBITDA及び調整後EBITDAは、IFRSに基づく指標である営業利益及び当期利益等の業績指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。これらの指標は、他社において示されている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得ます。

EBITDA及び調整後EBITDAの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i)製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです。また、(ii)業績評価において重視され得る一定の財務情報、例えば、企業買収や無形資産の償却による影響を除外しております。さらに、(iii)一定期間において継続して生じ得る一定の事項を除外しており、また、(iv)投資家において当社の長期的な観点からの経営には無関係ととらえる事項を必ずしも除外しておりません。これらのIFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠する当期利益（損失）と同視してはならず、また、これらに代わるものととらえてはなりません。投資家の皆様におかれましては、当社の財務諸表全体を把握し、当社業績、事業価値及び収益予想を評価する基礎となる指標としてはIFRS準拠財務指標に依拠し、また、EBITDA及び調整後EBITDAは補足的な指標として用いられるようお願い申し上げます。

当社においては、EBITDAは、法人所得税費用、減価償却費及び償却費、並びに純支払利息控除前の連結当期利益を指します。また、調整後EBITDAは、減損損失、その他の営業収益・費用（減価償却費及び償却費を除く）、金融収益・費用（純支払利息を除く）、持分法による投資損益及び企業結合会計影響や取引関連費用などの当社の中核事業に関連しないその他の項目を除外するように調整されたEBITDAを指します。

IFRSに準拠した指標の中では当期利益が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整をご参照下さい。

純有利子負債

当社が、純有利子負債をお示しする理由は、当社の経営陣が、当社の現金及び現金同等物控除後の負債をモニター及び分析するために本指標を使用し、また当社のレバレッジをモニターするために本指標を調整後EBITDAと併せて使用しており、投資家の皆様にとって有用であると考えているためです。また、負債についての同様の指標が、証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行う際に頻繁に用いられるものであると考えています。

当社の純有利子負債は、以下により算出しています。まず、連結財政状態計算書に記載されている社債及び借入金の流動部分と非流動部分合計を計算します。その上で、(i) 期初に残存する外貨建て負債を直近12か月の期中平均レートを用いて換算し、報告期間中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については対応するスポットレートを用いて換算するものであり、当社の経営陣が当社のレバレッジをモニターするために使用する方法論を反映しています。また、(ii) S&Pグローバル・レーティング・ジャパンの格付手法に基づく株式に似た特徴を評価して、S&Pグローバル・レーティング・ジャパンが2019年6月に発行したハイブリッド債（劣後債）の元本総額5,000億円に対して、50%のエクイティクレジットを適用しています。この数字から、ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関係して当社が第三者に代わり一時的に保有していた現金を除いた現金及び現金同等物、およびその他の金融資産に計上され公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資を控除し、純有利子負債を算出しています。

純有利子負債の有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i) 製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです、(ii) 当社の負債に支払われる利息の金額を反映していません、(iii) 当社の負債に対する当社の前払い能力又は償還能力の制限を反映していません、(iv) 当社が現金同等物を現金に換金する際に、ある通貨から他の通貨に換金する際に、又は当社グループ内で現金を移動する際に、当社が負担する可能性のある手数料、費用又はその他の費用を反映していません、(v) 有利子負債には、当社のローン契約と整合性のある平均為替レートが適用されますが、これは当社がある通貨を他の通貨に換金することができる実際の為替レートを反映していません、(vi) 当社は合理的であると考えていますが、当社の劣後債の金額はそれらの負債性に影響を及ぼさないことから、持分法による投資利益を反映しています。純有利子負債は、IFRSに基づく指標である社債、借入金及びその他の負債指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。

IFRSに準拠した指標の中で、純有利子負債は社債と借入金が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、純有利子負債/調整後EBITDAをご参照下さい。

2023年度第1四半期 財務ベース業績 （CERベース増減率を含む）



(億円)	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	対前年同期		
			AERベース		CERベース
			増減額	増減率	増減率
売上収益	9,725	10,586	862	8.9 %	3.7 %
売上原価	△2,929	△3,211	△282	△9.6 %	△4.6 %
売上総利益	6,796	7,375	579	8.5 %	3.3 %
対売上収益比率	69.9 %	69.7 %		△0.2 pp	△0.3 pp
販売費及び一般管理費	△2,315	△2,481	△166	△7.2 %	△1.9 %
研究開発費	△1,436	△1,627	△191	△13.3 %	△6.6 %
製品に係る無形資産償却費	△1,170	△1,232	△62	△5.3 %	2.0 %
製品に係る無形資産減損損失	△142	△62	80	56.3 %	58.2 %
その他の営業収益	55	43	△12	△22.4 %	△22.0 %
その他の営業費用	△282	△329	△47	△16.8 %	△10.0 %
営業利益	1,505	1,686	181	12.0 %	10.0 %
対売上収益比率	15.5 %	15.9 %		0.4 pp	1.0 pp
金融収益	609	265	△345	△56.6 %	△56.9 %
金融費用	△555	△596	△41	△7.4 %	△4.6 %
持分法による投資損益	△5	△4	1	15.9 %	51.6 %
税引前四半期利益	1,555	1,350	△204	△13.1 %	△14.0 %
法人所得税費用	△505	△456	48	9.6 %	11.2 %
四半期利益	1,050	894	△156	△14.9 %	△15.4 %
非支配持分	△0	△0	△0	△57.0 %	△70.2 %
四半期利益（親会社の所有者持分）	1,050	894	△156	△14.9 %	△15.4 %
基本的 EPS（円）	67.94	57.51	△10.43	△15.4 %	△15.9 %

前年同期に対する、国際会計基準に準拠した実勢レート（Actual Exchange Rate）ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート（Constant Exchange Rate）ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、A-1「Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フローの定義」をご参照ください。

対前年同期の増減率（％）は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

2023年度第1四半期 Core業績 (CERベース増減率を含む)



(億円)	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	対前年同期		
			AERベース		CERベース
			増減額	増減率	増減率
売上収益	9,725	10,586	862	8.9 %	3.7 %
売上原価	△2,782	△3,212	△430	△15.5 %	△10.2 %
売上総利益	6,943	7,374	431	6.2 %	1.1 %
対売上収益比率	71.4 %	69.7 %		△1.7 pp	△1.8 pp
販売費及び一般管理費	△2,317	△2,483	△166	△7.2 %	△1.9 %
研究開発費	△1,435	△1,627	△193	△13.4 %	△6.7 %
営業利益	3,191	3,263	73	2.3 %	△2.0 %
対売上収益比率	32.8 %	30.8 %		△2.0 pp	△1.8 pp
金融収益	237	263	26	11.1 %	10.4 %
金融費用	△508	△548	△40	△8.0 %	△1.0 %
持分法による投資損益	10	8	△2	△19.5 %	△18.1 %
税引前四半期利益	2,929	2,986	57	1.9 %	△1.6 %
法人所得税費用	△687	△652	36	5.2 %	9.5 %
四半期利益	2,242	2,334	92	4.1 %	0.9 %
非支配持分	△0	△0	△0	△57.0 %	△70.2 %
四半期利益（親会社の所有者持分）	2,241	2,334	92	4.1 %	0.9 %
基本的 EPS（円）	145	150	5	3.5 %	0.3 %

前年同期に対する、国際会計基準に準拠した実勢レート（Actual Exchange Rate）ベースの増減額および増減率は「AER」の表記で示し、国際会計基準に準拠しない恒常為替レート（Constant Exchange Rate）ベースの増減率は「CER」の表記で示しています。「CERベースの増減」の定義については、A-1「Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フローの定義」をご参照ください。

対前年同期の増減率（％）は、利益に対してプラスであれば正で、利益に対してマイナスであれば負で表示しています。

2023年度第1四半期 財務ベースからCoreへの調整表



(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				CORE
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益／費用	その他	
売上収益	10,586					10,586
売上原価	△3,211				△1	△3,212
売上総利益	7,375				△1	7,374
販売費及び一般管理費	△2,481				△2	△2,483
研究開発費	△1,627				△0	△1,627
製品に係る無形資産償却費	△1,232	1,232				—
製品に係る無形資産減損損失	△62		62			—
その他の営業収益	43			△43		—
その他の営業費用	△329			329		—
営業利益	1,686	1,232	62	287	△3	3,263
対売上収益比率	15.9%					30.8%
金融収益及び費用（純額）	△331				46	△285
持分法による投資損益	△4				12	8
税引前四半期利益	1,350	1,232	62	287	54	2,986
法人所得税費用	△456	△262	△14	△64	145	△652
非支配持分	△0					△0
四半期利益（親会社の所有者持分）	894	970	49	222	199	2,334
基本的EPS（円）	58					150
株式数（百万）	1,554					1,554

2022年度第1四半期 財務ベースからCoreへの調整表



(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整				CORE
		無形資産に係る償却費	無形資産に係る減損損失	その他の営業収益／費用	その他	
売上収益	9,725					9,725
売上原価	△2,929				147	△2,782
売上総利益	6,796				147	6,943
販売費及び一般管理費	△2,315				△2	△2,317
研究開発費	△1,436				1	△1,435
製品に係る無形資産償却費	△1,170	1,170				—
製品に係る無形資産減損損失	△142		142			—
その他の営業収益	55			△55		—
その他の営業費用	△282			282		—
営業利益	1,505	1,170	142	227	146	3,191
対売上収益比率	15.5%					32.8%
金融収益及び費用（純額）	55				△326	△271
持分法による投資損益	△5				15	10
税引前四半期利益	1,555	1,170	142	227	△166	2,929
法人所得税費用	△505	△251	△31	△39	138	△687
非支配持分	△0					△0
四半期利益（親会社の所有者持分）	1,050	920	111	188	△27	2,241
基本的EPS（円）	68					145
株式数（百万）	1,546					1,546

2023年度第1四半期 フリー・キャッシュ・フロー



(億円)	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	対前年同期	
当期利益	1,050	894	△156	△14.9%
減価償却費、償却費及び減損損失	1,725	1,793	68	
運転資本増減（△は増加）	△1,242	△1,536	△294	
法人税等の支払額	△249	△559	△310	
法人所得税等の還付及び還付加算金の受取額	41	33	△8	
その他	△482	299	781	
営業活動によるキャッシュ・フロー	842	924	82	9.7%
当社が第三者に代わり一時的に保有していたキャッシュの調整 ^(注1)	535	△309	△844	
有形固定資産の取得による支出	△421	△460	△38	
有形固定資産の売却による収入	0	0	△0	
無形資産の取得による支出	△563	△2,233	△1,670	
投資の取得による支出	△29	△7	23	
投資の売却、償還による収入	62	5	△56	
事業売却による収入（処分した現金及び現金同等物控除後）	—	4	4	
フリー・キャッシュ・フロー	426	△2,075	△2,501	—%

(注1) 一時的なキャッシュの調整は、ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関係して当社が第三者に代わり一時的に保有していた現金の変動を指します。

2023年度第1四半期 純有利子負債/調整後EBITDA



純有利子負債/調整後EBITDA倍率

(億円)	2023年度 第1四半期
現金及び現金同等物およびレベル1に区分される債券投資 ^(注1)	1,597
連結財政状態計算書上の負債簿価	△47,471
ハイブリッド社債の50%資本性認定 為替調整 ^(注2)	2,500
有利子負債 ^(注3)	△42,922
純有利子負債	△41,325
純有利子負債/調整後EBITDA倍率	2.9x
調整後EBITDA	14,388

キャッシュの純増減

(億円)	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	対前年同期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	842	924	82	9.7%
有形固定資産の取得による支出	△421	△460		
有形固定資産の売却による収入	0	0		
無形資産の取得による支出	△563	△2,233		
投資の取得による支出	△29	△7		
投資の売却、償還による収入	62	5		
事業売却による収入 (処分した現金及び現金同等物控除後)	—	4		
短期借入金及びコマーシャルペーパーの純増加額	—	1,100		
長期借入れによる収入	—	1,000		
長期借入金の返済による支出	—	△1,001		
社債の償還による支出	△268	—		
自己株式の取得による支出	△269	△23		
利息の支払額	△228	△198		
配当金の支払額	△1,289	△1,307		
その他	△100	△123		
現金の増減額 (△は減少)	△2,262	△2,319	△57	△2.5%

(注1) ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関係して当社が第三者に代わり一時的に保有していた現金を除いた現金及び現金同等物、およびその他の金融資産に計上され公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資を指します。

2023年度第1四半期より、その他の金融資産に計上され公正価値ヒエラルキーのレベル1に区分される債券投資を、純有利子負債の計算における有利子負債からの控除項目に含めております。なお、同様の方法を用いて計算した場合においても2022年度末およびそれ以前の会計期間における純有利子負債に変更はありません。

(注2) 期中平均レートで換算される調整後EBITDA計算と整合させるため、期初から期中残存する外貨建て負債を期中平均レートを用いて換算しております。報告期間中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については当該日の対応するスポットレートを用いて換算しております。

(注3) 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。また、負債償却と為替影響に関連した非資金性の調整を含む。

2022年度第4四半期 純有利子負債/調整後EBITDA



純有利子負債/調整後EBITDA倍率

(億円)	2022年度
現金および現金同等物 ^(注1)	4,077
連結財政状態計算書上の負債簿価	△43,823
ハイブリッド社債の50%資本性認定 為替調整 ^(注2)	2,500
有利子負債 ^(注3)	85
純有利子負債	△37,161
TAK-279の取得に関連する一時金支払 ^(注4)	4,004
純有利子負債（TAK-279の取得に関連する一時金を除く）	△33,157
純有利子負債/調整後EBITDA倍率	2.6x
純有利子負債/調整後EBITDA倍率 （TAK-279の取得に関連する一時金を除く）	2.3x
調整後EBITDA	14,218

キャッシュの純増減

(億円)	2021年度	2022年度	対前年度	
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,231	9,772	△1,459	△13.0%
有形固定資産の取得による支出	△1,233	△1,407		
有形固定資産の売却による収入	18	10		
無形資産の取得による支出	△628	△4,930		
投資の取得による支出	△83	△102		
投資の売却、償還による収入	169	223		
事業取得による支出 （取得した現金及び現金同等物控除後）	△497	—		
事業売却による収入 （処分した現金及び現金同等物控除後）	282	80		
短期借入金及びコマーシャルペーパーの純減少額	△0	400		
長期借入れによる収入	—	750		
長期借入金の返済による支出	△4,141	△752		
社債の発行による収入	2,493	—		
社債の償還による支出	△3,960	△2,815		
自己株式の取得による支出	△775	△269		
利息の支払額	△1,082	△1,086		
配当金の支払額	△2,837	△2,794		
その他	△411	△470		
現金の増減額（△は減少）	△1,453	△3,391	△1,938	△133.4%

(注1) 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含み、ワクチン運営および売上債権の売却プログラムに関係して当社が第三者に代わり保有していた現金を除く。

(注2) 期中平均レートで換算される調整後EBITDA計算と整合させるため、期初から期中残存する外貨建て負債を期中平均レートを用いて換算しております。
報告期間中に計上した新規の外貨建て負債および償還した既存の外貨建て負債については当該日の対応するスポットレートを用いて換算しております。

(注3) 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。
また、負債償却と為替影響に関連した非資金性の調整を含む。

(注4) 当項目は、2023年2月にTAK-279の取得に関連する一時金として支払った40億米ドルの一部である30億米ドルを、2023年3月31日期末為替レートである1米ドル133.48円を用いて日本円に換算しております。

2023年度第1四半期 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整



(億円)	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	対前年同期	
当期利益	1,050	894	△156	△14.9%
法人所得税費用	505	456		
減価償却費及び償却費	1,583	1,715		
純支払利息	285	266		
EBITDA	3,423	3,332	△91	△2.7%
減損損失	142	78		
その他の営業収益・費用（減価償却費、償却費及びその他の非資金項目を除く）	215	257		
金融収益・費用（純支払利息を除く）	△340	65		
持分法による投資損益	5	4		
その他の調整項目	267	146		
COVID-19に係る非中核費用	27	—		
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	124	—		
その他の費用 ^(注1)	116	146		
調整後EBITDA	3,712	3,882	170	4.6%

(注1) 株式報酬にかかる非資金性の費用とその他の一過性の非資金性の費用の調整を含みます。

2023年度第1四半期 当期利益からEBITDA/調整後EBITDA（LTM）への調整



(億円)	2022年度 通期 (4-3月)	2022年度 第1四半期 (4-6月)	2023年度 第1四半期 (4-6月)	2023年度 第1四半期 LTM ^(注1) (7-6月)
当期利益	3,170	1,050	894	3,014
法人所得税費用	581	505	456	532
減価償却費及び償却費	6,644	1,583	1,715	6,776
純支払利息	1,115	285	266	1,096
EBITDA	11,510	3,423	3,332	11,419
減損損失	644	142	78	580
その他の営業収益・費用（減価償却費、償却費及びその他の非資金項目を除く）	1,090	215	257	1,132
金融収益・費用（純支払利息を除く）	△47	△340	65	358
持分法による投資損益	86	5	4	86
その他の調整項目	935	267	146	814
COVID-19に係る非中核費用	99	27	—	73
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	249	124	—	125
その他の費用 ^(注2)	587	116	146	617
調整後EBITDA	14,218	3,712	3,882	14,388

(注1) 2023年6月までの過去12ヶ月（LTM: Last Twelve Months）、2022年度通期から2022年度第1四半期累計を控除し、2023年度第1半期累計を加算して算出しています。

(注2) 株式報酬にかかる非資金性の費用とその他の一過性の非資金性の費用の調整を含みます。

2023年度第1四半期 資本的支出、減価償却費及び償却費、減損損失



(億円)	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	対前年同期		2023年度 公表予想
資本的支出 ^(注1)	984	2,692	1,709	173.7%	4,800 - 5,300 ^(注3)
有形固定資産の増加額	421	460	38	9.1%	
無形資産の増加額	563	2,233	1,670	296.9%	
減価償却費及び償却費	1,583	1,715	132	8.4%	6,500
有形固定資産の減価償却費 ^(注2) (A)	355	411	56	15.7%	
無形資産の償却費 (B)	1,228	1,304	76	6.2%	
うち、製品に係る償却費 (C)	1,170	1,232	62	5.3%	4,800
うち、製品以外に係る償却費 (D)	58	72	15	25.9%	
減価償却費及び償却費 (製品に係る償却費を除く) (A)+(D)	412	483	71	17.1%	1,700
減損損失	142	78	△64	△45.0%	
うち、製品に係る減損損失	142	62	△80	△56.3%	500
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	1,313	1,294	△19	△1.4%	5,300

(注1) キャッシュベース

(注2) 投資不動産に係る減価償却費を含む。

(注3) Nimbus社からのTAK-279の取得（10億米ドル）およびHUTCHMED社からのフルキンチニブのライセンス権の取得（4億米ドル）に関連する支出を反映しています。当社は、TAK-279の取得に関連する40億米ドルの一時金支払いのうち、30億米ドルを2022年度に支払いしました。残りの10億米ドルのうち9億米ドルは2023年4月に支払っており、1億米ドルは2023年8月に支払い予定です。

2023年度業績予想（詳細）



(億円)		2022年度 実績	2023年度 公表予想 (2023年5月11日)	対前年度		増減理由
財務ベース	売上収益	40,275	38,400	△1,875	△4.7%	成長製品・新製品拡大が独占販売期間満了（VYVANSEやアジルバ）による影響を大部分相殺する一方、COVID-19ワクチン減収と為替によるマイナス影響も想定 CERベースでは対前年度△4.0%
	研究開発費	△6,333	△6,430	△97	△1.5%	
	製品に係る無形資産償却費	△4,851	△4,800	51	1.1%	2023年度は一時的な収益の減少を見込む 事業構造再編費用や承認前在庫に係る費用の増加を見込む
	製品に係る無形資産減損損失	△573	△500	73	12.8%	
	その他の営業収益	254	140	△114	△44.9%	
	その他の営業費用	△1,452	△1,500	△48	△3.3%	
	営業利益	4,905	3,490	△1,415	△28.8%	2022年度に計上した一時的な評価益を含む金融収益の減少を見込む
	金融収益及び費用（純額）	△1,068	△1,650	△582	△54.5%	
	税引前当期利益	3,751	1,850	△1,901	△50.7%	
	当期利益（親会社の所有者帰属分）	3,170	1,420	△1,750	△55.2%	
基本的EPS（円）		204	91	△114	△55.6%	
Core売上収益（注1）		40,275	38,400	△1,875	△4.7%	成長製品・新製品拡大が独占販売期間満了（VYVANSEやアジルバ）による影響を大部分相殺する一方、COVID-19ワクチン減収と為替によるマイナス影響も想定
Core営業利益（注1）		11,884	10,150	△1,734	△14.6%	
Core EPS（円）		558	434	△124	△22.2%	税務便益を享受した2022年度から通常水準のCore税率へ
フリー・キャッシュ・フロー		4,462	4,000～5,000			2023年度公表予想には、Nimbus社からのTAK-279の取得（10億米ドル）および HUTCHMED社からのフルキンチニブのライセンス権の取得（4億米ドル）に関連する支出を反映。
資本的支出（キャッシュ・フロー・ベース）		△6,337	△4,800～△5,300			
有形固定資産の減価償却費及び無形資産償却費 （製品に係る無形資産償却費を除く）		△1,793	△1,700	93	5.2%	
調整後EBITDAに対する現金税金の税率 （事業売却を除く）		約13%	10%台半ばから後半			
米ドル/円		135	131	△4	△2.9%	
ユーロ/円		141	141	0	0.3%	

（注1）定義はA-1「Core財務指標、CERベースの増減、フリー・キャッシュ・フローの定義」を、調整表はA-14「2023年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表」をご参照ください。

2023年度業績予想 財務ベース営業利益からCore営業利益への調整表



(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整			Core
		無形資産 に係る 償却費	無形資産 に係る 減損損失	その他の 営業収益及び 営業費用	
売上収益	38,400				38,400
売上原価					
売上総利益					
販売費及び一般管理費及び研究開発費					
製品に係る無形資産償却費	△4,800	4,800			—
製品に係る無形資産減損損失	△500		500		—
その他の営業収益	140			△140	—
その他の営業費用	△1,500			1,500	—
営業利益	3,490	4,800	500	1,360	10,150

2023年度前提為替レートおよび為替感応度



平均レート（円）				為替円安影響（2023年4月～2024年3月）（億円）				
	2022年度 第1四半期 実績 (4-6月)	2023年度 第1四半期 実績 (4-6月)	2023年度 前提 (4-3月)		売上収益 (国際会計基準)	営業利益 (国際会計基準)	当期利益 (国際会計基準)	Core営業利益 (国際会計基準に 非準拠)
米ドル	127	136	131	1 %為替円安影響	195.9	17.0	6.7	61.5
				1円為替円安影響	149.6	13.0	5.1	47.0
ユーロ	137	148	141	1 %為替円安影響	53.5	△39.1	△31.6	△30.1
				1円為替円安影響	37.9	△27.8	△22.4	△21.3
ロシアルーブル	1.8	1.7	1.9	1 %為替円安影響	5.6	3.2	2.5	3.8
中国元	19.4	19.6	19.5		18.8	11.1	8.5	11.1
ブラジルリアル	26.3	27.1	25.9		10.0	6.3	4.9	6.4



Better Health, Brighter Future

© 2023 Takeda Pharmaceutical Company Limited. All rights reserved.